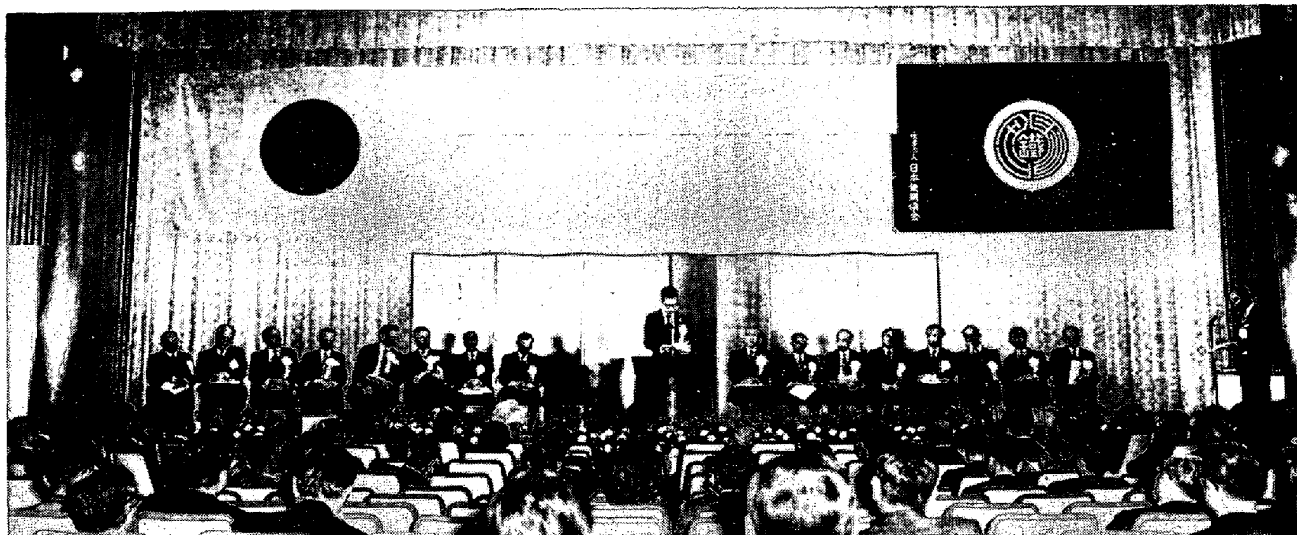


日本鉄鋼協会創立 60 周年記念式典



60 周年 式 典 会 場

本会は大正4年(1915)2月6日に創立以来、今年で60周年を迎えました。

創立60周年記念式典は、第89回講演大会の前日の4月3日(木)、午前9時30分から東京・経団連会館14階ホールにおいて盛大に挙行された。式場はステージ正面上に、青地に白抜きの看板と左側に日本国旗、右側に日本鉄鋼協会旗を掲げ、演卓を中心に貴賓席を左右に並べ、ステージ前面は生花で縁取り簡素な中にも記念式典にふさわしい飾り付けとなつた。

奏楽が流れる会場に、9時25分作井会長を先頭に内外来賓が、参加者の拍手に迎えられながら入場、ステージ向つて右側に作井会長以下7名、左側に杉二郎日本学術振興会常務理事7名が着席された。今回の記念式典にはヨーロッパ6カ国、アメリカ、オーストラリアなど11カ国の代表と、国際鉄鋼協会、ラテンアメリカ鉄鋼協会の代表と国際鉄鋼協会ラテンアメリカ鉄鋼協会の代表と国際鉄鋼協会技術委員会委員など夫人を含め30名を越す海外からの参加者があつた。

式典は定刻9時30分、日本鉄鋼協会田畑新太郎専務理事の開会の辞で始まつた。

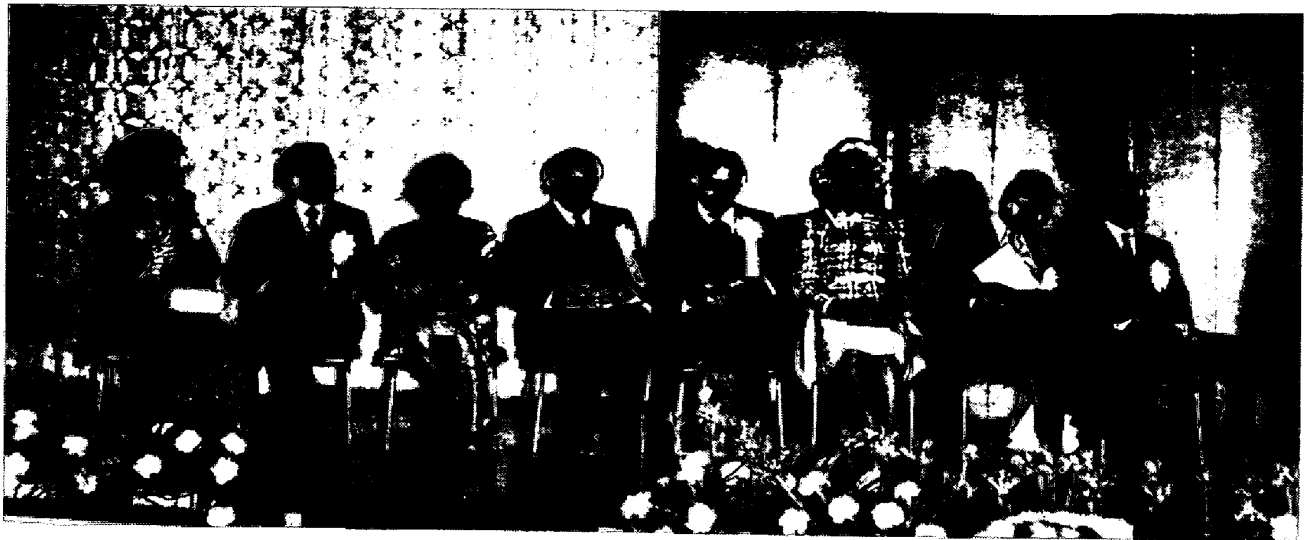
先づ、日本国歌の演奏があり、つづいて日本鉄鋼協会作井誠太会長の式辞に入り、「60周年記念式典のために海外からはるばる参加された外国来賓、ならびに国内各界を代表する来賓に対して深甚の謝意を表した後、最近10年間における本会の活動内容は、鉄鋼界の発展に伴い拡大し、かつ充実したものとなつたが、これは会員ならびに関係者各位の努力に負うところが大きい。現在は高度成長に伴つた種々の困難に直面しているが、これらを克服するために必要なのは科学と技術であり、したが

つて独創的な研究開発が期待されている。また国際的な交流、協力関係の緊密化が重要である」と挨拶した。

次いで来賓の祝辞に入り国内では、文部大臣永井道雄殿(大臣は国会開期中で、式典途中に来場され、祝辞を述べられた後、直ちに退場された)。日本学術会議会長代理高橋幸八郎殿(日本学術会議副会長)、日本学術振興会常務理事杉二郎殿(茅誠司会長海外出張中のため代理)、関連学協会代表日本金属学会橋口隆吉殿、鉄鋼界代表日本鉄鋼連盟会長稲山嘉寛殿の5氏からそれぞれ祝辞があつた。

引続いて外国来賓の祝辞に入り、順序はアルファベットに始められ、オーストラリアはオーストラリアン鉱山冶金学会のステンレイク氏(B.H.P日本駐在技術代表)、ベルギーはCRMのデッカー博士、フランスはフランス鉄鋼協会のコーシェ氏(IRSID所長)、ドイツはドイツ鉄鋼協会のボグデンディ教授(Klöckner-Werk副社長)、オランダはカレンフェルス氏(ESTEL取締役)、スウェーデンはスウェーデン鉄鋼連盟ナスベス専務理事、イギリスは金属学会会長、英国鉄鋼公社総裁モンタギュー・フィニストン卿、アメリカはAIMEの鉄鋼学会のワイズ会長、アメリカ金属学会のマースデン氏(Algoma Steel副社長)がそれぞれ学協会、業界等の代表として祝辞を述べられた後、国際機関を代表して、国際鉄鋼協会(IISI)のベーカー専務局長、ラテンアメリカ鉄鋼協会(ILAFA)レオン会長の2氏から祝辞があつた。

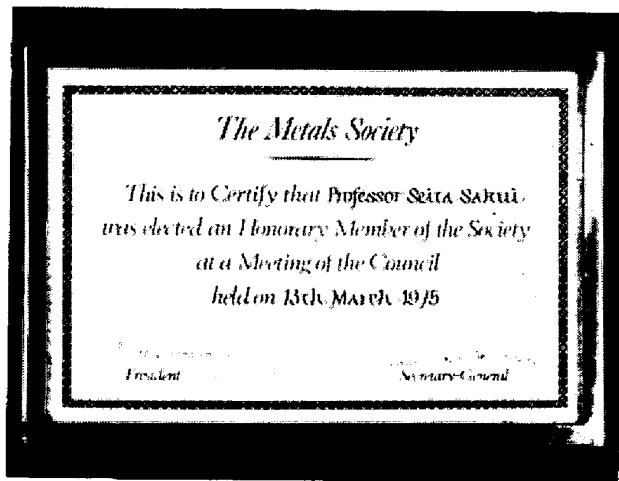
各代表は祝辞を述べられた際に下記の記念品を作井会長に手渡された。CRMから水色の花びん、フランス鉄鋼協会からメダル、カレンフェルス氏から風景画、スウェーデン鉄鋼連盟から透明なガラスの花びん、イギリス金



段上に並んだ新名誉会員 向つて右より、中野宏氏、フィニストン卿、フィニストン卿夫人、ワイズ氏、レオン氏、レオン夫人、ゴメッツ氏、ゴメッツ夫人

属学会からチエスの駒とその説明書、AIME から祝辞状、国際鉄鋼協会から「デ・レ・メタリカ」の木版画といずれも 60 周年を記念するにふさわしい心のこもっている贈物の数々である。なお、ソ連科学アカデミーのジャボロンコフ氏およびアゲーフ氏連名で祝辞が送られてきたことが田畑専務理事から披露された。

また、イギリスのフィニストン卿は、祝辞の際に金属学会理事長の決定に従い、作井会長を金属学会の名誉会員に推挙したいと述べられ、名誉会員証を作井会長に手渡された。



作井会長に贈られた

The Metals Society の名誉会員証

式典は次いで名誉会員の推挙に入つた。名誉会員は、我が国鉄鋼業に対して功績、名望のある方の中から、評議員会の議を経て、現在内外併せて 49 名の方を推挙しているが、今回は、日本では中野宏氏、海外ではイギリスのモンタギュー・フィニストン卿、アメリカのウィリアム・ワイズ氏、ブラジルのマリオ・ロペス・レオン氏、チリーのアニバル・ゴメッツ・ガルシア氏、ソ連のアゲーフ氏の 6 名の方を新名誉会員として迎え入れること

になつたもので、ステージ向つて左側に出席の 5 名の新名誉会員が並び、作井会長からそれぞれ業績の紹介があつた。中野宏氏は、昭和 47 年 4 月から 2 年間、本会会長を歴任され、本会事業の推進を強く指導された。

モンタギュー・フィニストン卿は Metals Society の会長で英国鉄鋼公社総裁の職にあり、今回、俵賞を受賞されることになっている。

ウィリアム・ワイズ氏はアメリカの AIME 鉄鋼学会の会長として、本会と AIME との学術交流を指導推進されている。

マリオ・ロペス・ゴメッツ氏はラテンアメリカ鉄鋼協会 (ILAFA) 会長として中南米各国の鉄鋼業の指導に当り、日本を始めとする国際協調に努力されているほか、日本とブラジル鉄鋼の業友好促進に貢献されている。

アニバル・ゴメッツ・ガルシア氏はラテンアメリカ鉄鋼協会創立専務理事の職にあり、常に我が国と ILAFA との緊密な交流に心を注がれている。

ニコライ・ウラジミロヴィッチ・アゲーフ氏はソ連科学アカデミー会員で、日ソ両国で交互に開催している。日ソ製鋼物理化学シンポジウムのソ連側責任者で、その発展に尽力されている。以上のように我国鉄鋼業に対する功績が顕著であることを紹介した後、作井会長より名誉会員推挙状、名誉会員章が満場の拍手の中、それぞれ手渡された。推挙式に同道したフィニストン卿夫人、レオン夫人、ゴメッツ夫人に和服姿の細木洋子嬢から花束が贈られた。

なお、新しく名誉会員に推挙されたソ連のアゲーフ氏は病気のため、今回来日されなかつたので、5 月 19 日からモスクワで開催される「第 5 回日ソ製鋼物理化学シンポジウム」に、日本側の学術使節団長松下東大教授に名誉会員推挙状、名誉会員章を託し、アゲーフ氏に手渡したいと作井会長が紹介された。なお新名誉会員から推挙後、それぞれ簡単な謝辞が述べられた。

式典は順調に進行し、11 時 50 分から特別表彰に移つた。特別表彰は俵賞、製鉄功労賞、協会事様功労賞の三種があつて、式は俵賞の授与から始められた。

俵賞（金牌）は本会創立 50 周年（昭和40年）を記念して、本会創立者の一人、俵国一博士の遺徳を讃えるために設定されたもので、国の内外を問わず鉄鋼業の進歩発達または学術技術の研究開発に画期的功績があり、国際的に声望の高い個人に贈られる。これまでに三島徳七博士、浅田長平氏およびドイツのヘルマン・シェンク博士が受賞されており、今回は四番目の受賞者として、英国鉄鋼公社総裁のモンタギュー・フィニストン卿が選ばれた。俵賞授与に先立つて、作井会長からフィニストン卿の業績を



作井会長から俵賞（ゴールドメダル）を受ける
フィニストン卿

モンタギュー・フィニストン卿は、グラスゴーの法律化学技術大学冶金学科を御卒業なさいまして、同大学の講師、スチュワード・アンド・ロイド製鋼会社、英国海軍科学局、英国原子力公社、国際研究開発公社などを経て、1967 年、英国鉄鋼公社の設立と共に、同公社に移られまして、1973年に、同総裁に就任され、現在に至つていらつしやる方であります。卿の御経歴が、核エネルギー開発のための冶金学的研究と密接な関係がございまして、特に、英国原子力公社の研究が、世界的に名声を得たことは、長年に亘る卿の指導によるものであります。

また、卿は、各大学の博士号、名誉学位を受けられまして、英国学士院副院長、英国金属学会々長、英国鉄鋼協会副会長を歴任されるなど、金属工学のみならず、学術と技術の振興に尽されたのであります。特に、昨年は、金属、鉄鋼両学会の合併による新しい The Metals Society の創立に際しましては、初代会長に就任されまして、同時にまた、名誉あるベッセアー賞を受けられ、更に、本年 2 月、サーに列せられる光栄を得られた方であります。

以上の通り、卿の御業績は鉄鋼を含む金属の研究から、さらに金属の科学技術、並びに、工業全般の管理運営の広範な分野に亘っております。また、英国のみならず、国際的の協力研究の推進にも尽され、その御声譽は、世界的に高い方であります。依つて、表彰規定によりまして、俵賞を贈呈することになった次第であります。

我々日本鉄鋼協会は、かかる立派な方に、俵賞を御贈呈するのは、誠に光榮に存じ、また喜びと致しております。

と紹介後、作井会長から賞状と Gold Medal がフィニストン卿に手渡されると同時に、会場からフィニストン卿の功績を讃え、受賞を祝う盛んな拍手が送られた。受賞に対してフィニストン卿は次のごとく謝辞を述べられた。

会長並びに会場の皆さま

スコットランド人の私にとりまして日本鉄鋼協会創立 60 周年記念式典のこの東京での栄えある式場で、俵賞をたまわりますことはかけがえのない名誉であります。

過去の 4 人の著名な受賞者の方々と共に名をつらねさせていただけるばかりでなく、特に「日本の鉄冶金学の父」として、御名声の高い俵国一博士の御名前の光榮にあずかせていただけますことは、私は非常に誇りに思うところであります。

金属学会の母体でもあります英国鉄鋼協会の会長と評議会は、1922 年に、本多光太郎博士に Bessemer 賞を授与申し上げましたことを誇りにしておりました。50 年前には密接でありました日本と英国の鉄鋼人の間の相互信頼が、本日、貴協会長が、私に授けて下さいました俵賞を機に、再び強められたことを、当時の評議会のメンバーが知りましたならば、たいへん喜んだことでありましょう。

英国鉄鋼公社と英国鉄鋼業界の同僚たちは、評議会の仲間や、金属学会の全会員と同様、貴協会が、本日、私に授けて下さいました高い名誉に対して、深い感謝の意を表します。

製鉄功労賞は過去 10 年間にわが国鉄鋼業の進歩発達または学術技術の研究開発に特別の功労があつたものに授与されるもので、今回は次の 10 名の方々に作井会長から賞状とメダルが贈られた。



製鉄功労賞を贈られる藤本一郎 川崎製鉄社長

伊木 常世君	トピー工業(株)常任顧問
小林佐二郎君	(株)日本製鋼所会長
佐野 幸吉君	名古屋工業大学学長
沢村 宏君	京都大学名誉教授
田畑新太郎君	日本鉄鋼協会専務理事
武田 喜三君	大同製鋼(株)取締役社長
中野 宏君	日本鋼管(株)相談役
藤木 俊三君	新日本製鉄(株)常任顧問
藤本 一郎君	川崎製鉄(株)取締役社長
吉崎 鴻造君	東洋鋼板(株)専務取締役

協会事業功労賞は過去 10 年間に本会事業の推進に特



協会事業功労賞を贈られる池上平治 日本鋼管
常務取締役



祝賀記念パーティー会場における交歓風景

別の功労のあつたものに授与されるもので、今回は次の
14 名の方々に、作井会長から賞状と記念品が贈られた。

浅田 幸吉君	(株)神戸製鋼所専務取締役
荒木 透君	東京大学教授
井上 道雄君	名古屋大学教授
池上 平治君	日本鋼管(株)常務取締役京浜製鉄所長
池野 輝夫君	新日本製鉄(株)製品技術研究所長
大中都四郎君	コンキャスト(株)日本代表
河西 健一君	住友金属工業(株)取締役支配人
木下 享君	科学技術庁振興局長
三本木 貢治君	川崎製鉄(株)専務取締役技術研究所長
田中 実君	東京工業大学教授
橋口 隆吉君	東京大学教授
不破 祐君	東北大学教授
堀川 一男君	日本鋼管(株)取締役技術研究所長
盛 利貞君	京都大学教授

続いて事務局永年勤続表彰が行なわれ、常務理事技術
部長吉田道一君、総務部長田鍋力君の2名に作井会長から
賞状ならびに記念品が贈られた。

日本鉄鋼協会の創立 60 周年記念式典は、12 時 40 分
滞りなく終了し、参会者拍手の裡に散会した。

なお、記念行事としては、午後、特別講演ならびに映
画会が行われ、多数の参会者があつた。

1) 特別講演

“The Steel Industry in Japan and Great Britain:
Some Questions and Answers”

俵賞受賞者
英国鉄鋼公社総裁
SIR MONTAGUE FINNISTON

「期待されるわが国鉄鋼工学の未来像における理想と
現実」

名古屋工業大学学長 佐野 幸吉君

2) 映画

「日本の鋳」



なごやかな祝賀記念パーティー

「和鋼風土記」

また、夕刻 18:00 からは創立 60 周年記念祝賀パー
ティーが経団連会館ダイヤモンドルームにおいて開催され、
記念式典に参加された、内外来賓各位、新名誉会員、特
別表彰受賞者、昭和 50 年一般表彰者をはじめ、国際鉄
鋼協会技術委員会委員など海外から来日された方、会員
が多数出席した。パーティーは会場中央に氷細工の飾付
けが作られ、趣向をこらした数々のメニューが、左右の
大きなテーブルに盛られ、参加者は杯を傾け、料理を舌
鼓み、交歓を重ね、盛り上がりを見せた宴なかばに祝い
を表わす獅子舞が会場中央で舞われ、特に、外国人から
喜ばれ盛んな拍手が送られた。宴も終り近く、作井会長
の挨拶と、外国人を代表して、オランダのカーレンフェ
ルス氏、アメリカ・ASM のマースデン氏がスピーチを
行われた。会場はなごやかな雰囲気があふれ、国際色も
豊かに、60 周年を祝うにふさわしいものであつた。

なお、参会者全員にクリスタルの文鎮が記念品として
贈られた。

式 辞



本日ここに日本鉄鋼協会創立 60 周年記念式典を挙げるに当り、国の内外よりの来賓各位、先輩の方々ならびに会員の皆様方が、ご多忙中にも拘らず、御臨席の栄を贈りましたことは、本会にとりもつとも光栄と致すところであります。ここに厚く御礼申し上げます。

ことに国務多端の折からを御臨席下さいました永井文部大臣を始めとし、わが国の各界を代表される多数の来賓、また、海外諸国の最も有力な学協会を代表される方々、ならびに国際鉄鋼協会技術委員会の委員の皆様方の御参列を得ましたことは、誠に感激の至りであります。

本会は大正 4 年 2 月 6 日に 700 名の会員を以て設立されたものでありますが、爾来 60 年、わが国鉄鋼業の輝やかなしい発展と共に成長し、会員数も 1 万余名を擁する大学会となり、国内においてもとより、海外の諸国よりも、鉄鋼の科学技術に関しては、最も権威ある学会と

認められるに至りました。

殊に過去 10 年におけるわが国の鉄鋼業の高度成長に伴い、本会の規模は飛躍的に拡大し、活動内容も又格段に充実して参りました。

又海外諸国との学協会との提携も活発化し、1970 年には本会主催の鉄鋼科学技術国際会議を東京に開催し、これを成功させています。

このような本会の発展は、歴代の会長始め役員ならびに会員のご努力によることは勿論であります。一面において鉄鋼業界各位の絶大なご支援に負うところ極めて大なるものがあります。この機会において本会を代表して深く感謝の意を表します。

最近工業の高度成長に伴う諸種の困難やひずみが各方面に露呈し始め、人々はその対策を考えようとしています。この困難な時期をのり切るために、最後の決め手となるものは科学と技術であり、特に独創的なそれであることは疑う余地がありません。鉄鋼業の直面する諸困難を克服するための精力的な研究開発が、本会を中心に各企業で進められて居ります。それらの結果を基礎にして、理想の製鉄所が出現するのも夢ではありません。

過去 10 年間に於ける工業情勢のもう一つの特長は、あらゆる問題は国際的な関連を持ち、一国だけの解決策は考えられない点であります。我々はますます海外諸国の学協会との提携を緊密にし、国際交流を盛に行ない、相協力して鉄鋼技術の研究開発を推進し、ひいては国際親善の強化と、世界文化の向上に寄与したいものと念願致して居ります。

本日の記念式典のおめでたい機会に俵賞、製鉄功労賞、および協会事業功労賞の特別表彰式ならびに名誉会員推挙式が行なわれます。これらの表彰や推挙を受けられる方々のご業績およびご功労に心からなる敬意を表するものであります。

以上をもつて式辞と致します。

昭和 50 年 4 月 3 日

社団法人日本鉄鋼協会

会長 作井 誠太

祝

辞



文部大臣 永井 道雄殿

本日ここに、社団法人日本鉄鋼協会創立 60 周年記念式典が挙行されるに当たり、一言お祝いの言葉を申し述べます。

日本鉄鋼協会は、大正 4 年創立以来会員相互の緊密な提携協力の下に、学会誌、研究報告などの刊行、各種研究会の開催その他の事業を活発に推進され、光輝ある歴史と伝統を築かれるとともに、鉄鋼工学及び関連諸科学の進歩向上と、国際交流に多大の貢献をしてこられました。当学会を中心とする研究成果は極めて数多く、その質も優れたものが少なくありません。

当学会が金属工学の分野における我が国の代表的な学会としていよいよ隆盛に向かいつつあることは、ひとえに歴代の会長をはじめ会員各位のたゆみない精進努力のたまものであり、本日の式典をお祝いするに当たり、関係者各位の多年にわたるお骨折りに対して深く敬意を表します。

鉄鋼工学及び関連諸科学の分野における成果は、とりわけ良質で安価な鉄鋼製品を供給することにより、造船機械、電機等、我が国の関連産業の国際競争力の強化と国民生活の向上に多大の貢献をしてきましたが、今後は、例えば原子力利用による製鉄技術の開発と省資源の研究等幅広い研究開発に寄せられる期待は極めて大きいものがあります。このため、当学会の果たす役割はますます重要度を増すものと思われ、このような際に当学会が創立 60 周年を記念してここに盛大な式典並びに各種行事を挙行し、今後一層の発展を期されることは、誠に意義深いことであると考えます。

日本学術会議会長代理
高橋幸八郎殿

本日の式典に当たり、学会創立以来の輝かしい業績をたたえ、今日の発展を心からお祝い申し上げますとともに、この学会が今後更に優れた機能を發揮して、広く各方面の要請にこたえられ、鉄鋼工学及び関連諸科学の研究水準の向上に寄与されることと希望して、お祝いの言葉といたします。

本日ここに日本鉄鋼協会創立 60 周年記念式典が挙行されるにあたり日本学術会議を代表して一言お祝い申し上げます。

すでに皆様御承知のように日本鉄鋼協会は、大正 4 年に創立され時代の進展とともに著しい発展を遂げられ、多くの輝かしい業績を遺して今日に至りました。

本日ここにめでたく創立 60 周年記念式典が盛大に挙行されますことは誠にめでたい限りで御同慶にたえません。

私は貴協会が学界業界との緊密な協力のもとに我が国の鉄鋼業の振興発展のため、また鉄鋼に関する科学・技術の向上普及に努められたことに対しまして心から敬意を表する次第であります。

鉄鋼業は、それぞれの近代国民経済においてもつとも重要な基幹産業をなすものであることは、すべての人のひとしく認めるところであります。とくに明治以降が国経済発展の基本的な担い手であつたばかりではなく、いまや世界鋼鉄業の最先端に立っており、その社会経済的役割は、日本経済および世界経済においてきわめて重要だといわねばなりません。他方、最近エネルギー資源

の問題や環境問題などの緊急な諸問題に直面し、国民経済、国際経済は質的に大きく転換し、また科学の国際交流、国際協力も一段とその重要性が高まっております。

このような時に日本鉄鋼協会は、鉄鋼に関する国際会議、シンポジウム等国際交流の促進に積極的に取り組まれていますことは、鉄鋼に関する科学技術の発展のためにも極めて有益なことであり、これらの諸活動をさらに推進されることによって我が国の鉄鋼に関する学術の向上が一層促進されひいては国民生活および世界福祉に大きな貢献をもたらすものと信じます。

私ども日本学術会議におきましても科学が文化国家・平和国家の基礎であるという確信のもと、発足して以来、我が国の学術の進歩に寄与すべく微力ながら努力を重ねて参りました。また、今後とも国の内外の関係学会と密接な連絡協力のもとに科学政策の進展に寄与したい所存であります。

本日ここに創立 60 周年記念の輝かしい日を迎えられました日本鉄鋼協会がより一層御発展されることを念願いたしましてお祝いの言葉に代えさせていただきます。



日本学術振興会会長
茅 誠司殿
(代読同会常務理事 杉 二郎殿)

本日、社団法人日本鉄鋼協会創立六十周年記念式典が挙行されるにあたり、一言お祝いの言葉を申し述べる機会を得ましたことは、私の光栄とするところであります。

日本鉄鋼協会は鉄及び鋼に関する学術、技術その他一切の問題を調査研究し、我が国における鉄鋼業の振興発展を期することを目的として、大正 4 年に設立されて以来学界、業界との緊密な協力のもとに、鉄鋼に関する科学技術の基礎的研究並びに鉄鋼生産技術及び設備技術の共同研究を行うとともに海外諸国の鉄鋼協会との学術交流、鉄鋼に関する学術、技術の功労者に対する表彰を行う等幾多の有意義な活動を行い、輝かしい業績を挙げて

これ、我が国の鉄鋼産業が今日世界に冠たる地位を確立した基盤を培ったのでありまして、永年にわたる並々ならぬ御努力に対し深く敬意を表する次第であります。

既に御承知の方も多かろうと存じますが、日本学術振興会におきましては、産学協力事業の一環として昭和九年以降本会内に製鋼第 19 研究委員会を設け学界業界の第一線の研究者が協力して行う学術研究の実用化を推進してまいりました。

又製鋼第 19 研究委員会は、その研究を遂行するにあたり日本鉄鋼協会とも緊密な連絡を行つているのであります。そのような特別の間柄からも、本日の式典に際しまして、私は慶祝の念を深くするものでございます。

最近技術が急速な進歩を遂げた結果、産業の発達環境問題、エネルギー問題及び資源問題等と複雑に絡み合い、種々解決を要する困難な問題が発生しております。

我が国の鉄鋼業がこれらの諸問題を克服し、我が国経済の発展を支える基幹産業としての重責を果しつつ、国民の文化生活の向上に寄与することができるよう、日本鉄鋼協会の今後におけるなお一層の御活躍をお祈りいたしましてお祝いの言葉といたします。(茅会長外国出張のため、常務理事 杉 二郎殿代読)



関連学協会代表
日本金属学会会長
橋口 隆吉殿

本日、日本鉄鋼協会創立 60 周年の記念式典が挙行されるに当たりまして、ここに関連学協会を代表して一言お祝いの言葉を申し上げますことは、私の深く喜びとするところであります。

思いますに、1915 年、わが国の鉄鋼の製錬が漸く軌道に乗り、その技術が自立化の機運にあつた時に際しまして、貴会が日本鉱業会から独立し創立されましたことは、鉄冶金学の発展ならびに製錬技術の近代化の上からまことに意義深いものがあつたと存じます。

爾来 60 年、一貫してわが国の基幹産業の成長と共に

発展し、今日の会運の隆盛を見ましたことは誠に御同慶の至りでございます。

貴会はずねに創立の理念を高く掲げて、産業界との強い連携のもとに鉄鋼に関する科学と技術の進歩を図り、またその架橋的活動を軸として、鉄鋼産業の発展を目ざして共同研究を実施するなど、多くの重要な産業を行うとともに、諸外国との活発な学術交流にも力をいたすなど、多彩な協会活動を行って大きな成果をあげてこられたことは、関連学協会その他、各方面から高く評価されるところであります。

近年、客観状況はまことに厳しく、公害、環境問題、エネルギー資源の不足など、緊急な解決を迫られている問題も山積しております。またこれがひいては経済的価値観の転換など社会的に急激な変化が現われてきております。このような時にあたって貴会は創立 60 周年を迎えられたのでありますが、貴会がますます盛んに各種の事業を推進されると共に、新しい事態に対処する新しい技術の開発に関しても大きな成果をあげられることを期待するものであります。

ここに貴会の輝かしい創立 60 周年の記念式典に当り、野呂、今泉、香村、服部および俵の諸先生をはじめ創立にかかわる多くの先達の功績を偲び、かつまたそれに続く多数の役職員のたゆまざる御努力に対して心から敬意を表するものであります。

今後の日本鉄鋼協会の一層の御発展を祈り、祝辞いたします。



日本鉄鋼連盟会長
稲山 嘉寛殿

日本鉄鋼協会の創立 60 周年記念式に際しまして、鉄鋼業界を代表し、心からお祝いのことばを申し上げます。

ご承知の通り、当日本鉄鋼協会は、大正 4 年(1915 年) 2 月に、鉄および鋼に関する学術・技術上の諸問題を調査研究し、わが国における鉄鋼業の振興発達を期するという目的の下に設立されましたが、爾来、今日までに実

に 60 年間にわたり、終始この目的達成に全力を傾注され、其の間、幾多の輝かしい業績をあげて、今日に見られるようなわが国鉄鋼業の飛躍的発展、製鉄技術の目ざましい進歩を築きあげる上での、かけがえのない貴重な役割を果たしてこられたのであります。

創立当初 900 名の会員でスタートした本協会が、今や会員数一万名強という大きな組織にまで拡充され、国内はもとより、広く海外諸国からも、わが国における製鉄技術の文字通り中核的な、最も権威ある研究調査機関として高く評価され、近年いよいよ意義ある充実した活動を展開されておりますことは誠にご同慶の至りであります。

あらためて、日本鉄鋼業の躍進をひたすら願い、協会今日の発展を築きあげられた、学術界、製鉄業界のあまた諸先輩の方々、会員の皆様方の並々ならぬご協力とご努力・ご苦心のほどを拝察し、衷心より敬意を表する次第であります。

第二次大戦による壊滅的な打撃を受けたわが国鉄鋼業が、今日の地位を確立できましたのも、このような本協会をはじめとする業界各位のれゆみないご尽力の成果であることは、いうまでもありませんが、それと同時に、技術上の指導、資金、設備、原燃料等の供給を通して、我国製鉄業界に対し、援助協力を惜しまなかつた世界各国、とりわけ本日列席をいただいております製鉄国資源国の皆様のご協力無くしては到底実現し得なかつた所でありまして、此の席をかりまして改めて心からの御礼を申し上げる次第で御座います。

さて、鉄鋼業界の現状につきましては、一昨年秋の石油危機を契機とする原燃料の供給不安や異常な価格高騰に直面し、著しいコストアップにみまわれる一方、政府の強力な総需要抑制策の影響による国内需要の後退と、世界的な景気後退にともなう最近の鉄鋼輸出の不振が重なり、生産、収益面で恐らくは未曾有の容易ならぬ苦境に立ちいたっておりますことは、ご承知の通りであります。また、今後の長期的なすう勢をみても、資源・エネルギー問題や、インフレの高進さらには、労働力、環境問題など生産の諸制約が顕在化し、わが国はいわゆる低成長経済への転換を余儀なくされております。

もとより、いかなる時代においても、鉄は経済活動を支える基礎資材として、国民経済の安定、国民福祉の向上に主導的な役割を担っていかなければならず、また国際的にもその活動、交流の範囲はますます広まるなど、わが国鉄鋼業の責務は、内外ともに激動期を迎えた今日従来にもましていよいよ重大になっております。私ども鉄鋼業界が省資源・省エネルギーや設備の合理化、社会のニーズに即した新製品の開発など、時代の諸要請に応え、鉄の安定した生産、供給体制を維持していくためには、まずもって、業界全体が相携えまた、世界各国鉄鋼業と力を合わせて直面する諸問題の解決に全力を傾注していくことが不可欠であると存じます。

ことに、資源、労働力、環境など生産の諸制約を打開し鉄鋼業の新しい発展への活路をきりひらく鍵は、何といても、新しい技術の開発にかかっていると申して過言ではありません。

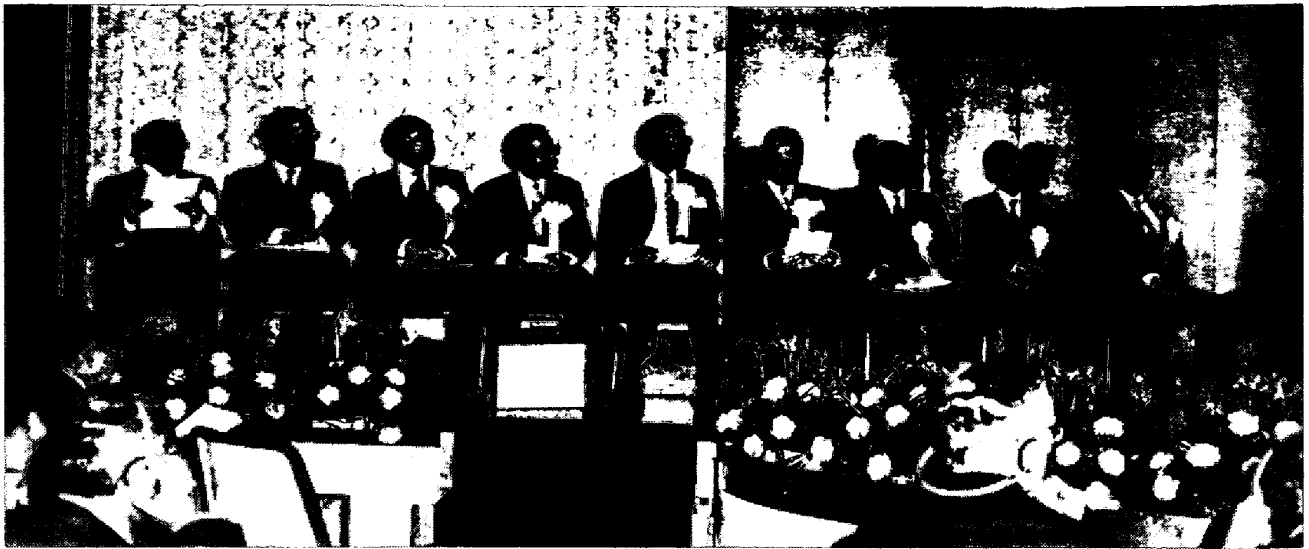
その意味で、製鉄技術の振興を目指し、相互に意見を

交換し、共に研鑽に励む業界共通の場ともいえるべき当協会に寄せられる期待は、いよいよ大なるものがあります。

新しい時代の流れのなかで、日本鉄鋼協会がその本来の目的であります鉄鋼の学術・技術の研究、調査機能をいよいよ充実されるとともに、鉄鋼業界における車の両輪の役目を果すべき、当協会と、日本鉄鋼連盟が、今後とも緊密な連けいを保ち、相携えてわが国鉄鋼業、ひい

てはわが国経済の発展、さらには、海外鉄鋼業との円滑な協力のもと、世界鉄鋼業全体の繁栄にも尽してまいりたいと念ずる次第であります。

日本鉄鋼協会が創立 60 周年の佳き日を迎えられるに当り、当協会の一層の飛躍発展を心から祈念いたしまして、お祝いのことばといたします。



向つて右より 永井道雄文部大臣, 杉 二郎 日本学術振興会常務理事, 稲山嘉寛 日本鉄鋼連盟
会長, デッカー氏 (ベルギー), ボグダンディー氏 (ドイツ), ナスベス氏 (スウェーデン), ワイズ
氏 (アメリカ), ベーカー氏 (IISI・アメリカ), レオン氏 (ILAFA・ブラジル)

外 国 来 賓 祝 辞

オーストララシアン鉱山冶金学会

Mr. R. W. Stenlake (Australia)

(B. H. P. 日本駐在技術代表)

会長殿, ご来賓各位殿, ご参会の皆様. オーストララシアン鉱山冶金学会が, 日本鉄鋼協会創立 60 周年記念式典に参加できましたことを光栄に感じております. 本日, オーストララシアン学会を代表致しまして, ご挨拶申し上げます. オーストララシアン鉱山冶金学会 F. F. Espie 会長並びに会員を代表して, 本日の意義深い式典に際し, 心よりお祝いお喜びを申し上げます. また Broken Hill Proprietary 社 Sir Ian McLennan 会長からも, ご祝辞を預かつております. 日本の鉄鋼産業の目覚ましい発展は, オーストラリア及びニュージーランドの人々によつて広く認識されています. 私は, 特に過去 15 年間にわたる日本産業の数々の業績を尊敬し賞讃しています. いかなる組織であれその成功または失敗を決めるのは人々であり, ここで述べた発展も, 個々及び集団による多くの人々の技能, 精励, 洞察によつて成し遂げられたものです. 人々の支援が貴協会の繁栄をもたらし, 今日世界中で高い尊敬を受けている所以です.

過去 15 年間に, 日豪間に強いきずなが結ばれ, オーストラリアは, 鉄鉱石, 石炭, マンガン鉱の主要源となり, 日本から鉱業発展及び製鉄所の主要設備を確保してきました.

また両国間には, 定期的に人事の交流が行なわれ, この結果, 両国の問題及び目標等相互の緊密な理解が生まれました. オーストララシアン鉱山冶金学会と貴協会と

の関係もこれと歩調を合わせており, オーストララシアン学会は, 近い将来, 合同会議を開催できるよう希望しております.

こうした関係が両国民及び両国産業の相互産業の相互利益となるべく維持発展することを確認しております.

日本鉄鋼協会並びに会員の皆様に対し, 一層のご発展とご多幸を心よりお祈り申し上げます, 日本鉄鋼協会の 60 周年に「おめでとうございます」と申し上げます.

ベルギ中央金属研究所 (CRN)

Dr. A. Decker (ベルギー)

会長殿, ご来賓各位殿, ご参会の皆様.

1965 年に 50 周年式典が挙行された当時, 同年の日本の鉄鋼生産は 4 千万トンの水準でした. 私達は日本の鉄鋼業の業績に深い感銘を受けました. 1974 年に, 同生産は 3 倍に達しましたが, これは世界の生産と比べると, 一層賞讃すべきものです. これと平行して, 鉄鋼製造工程上数多くの日本独自の改良が行なわれ, 世界的な名声を博してきました.

会長殿, 貴協会は, こうした発展普及に多大の貢献をなし, 本日の式典に当り, 大いなる名誉とすべきです. さらに, 私達の長年にわたる貴協会とのすばらしい関係並びに, 貴協会及び数多くの会員との友好のきずなに対して非常にうれしく存じます. こうした理由から, 本日にここに会長殿並びに貴協会に心よりお喜び申し上げますことは, 私達の大いなる名誉でありまた喜びであります.

ある政治家が「国は国民のある限り存する. 国民は,



向つて左より 作井誠太会長，高橋幸八郎 日本学術会議会長代理，橋口隆吉日本金属学会会長，ステンレイク氏（オーストラリア），コーシェ氏（フランス），カレンフェルス氏（オランダ），フィニストン卿（イギリス），マースデン氏（アメリカ）

会長殿並びに貴協会に対しまして、今後の一層のご発展をお祈り申し上げます。将来のご繁栄を確信しております。

フランス鉄鋼協会
IRSID 所 長

Mr. L. Coche（フランス）

代表の皆様，Ladies and Gentlemen, Visitors.

フランス、鉄鋼協会を代表しまして、貴協会の御繁栄を、心よりお慶び申し上げます。と共に、創立以来 60 年間に亘る数々の業績に対し、大いに、感嘆の意を表する次第であります。

日本鉄鋼業界は、この間、非常な発展を成し遂げ、特に、技術面における進歩は、著しいものがあります。これは、ひとえに、貴協会の完璧な組織力、並びに、関係者各位の献身的な御尽力に依るものと察する次第であります。現在、我が国鉄鋼関係各社、並びに私どもの研究機関は、貴協会と非常に密接なる協力関係にあります。今後とも、これらのよき協力関係が、維持発展されんことを祈つてやみません。

最後に、貴協会の益々の御繁栄、御発展を心よりお祈り申し上げます。

（コーシェ氏は日本語で祝辞を述べられました）

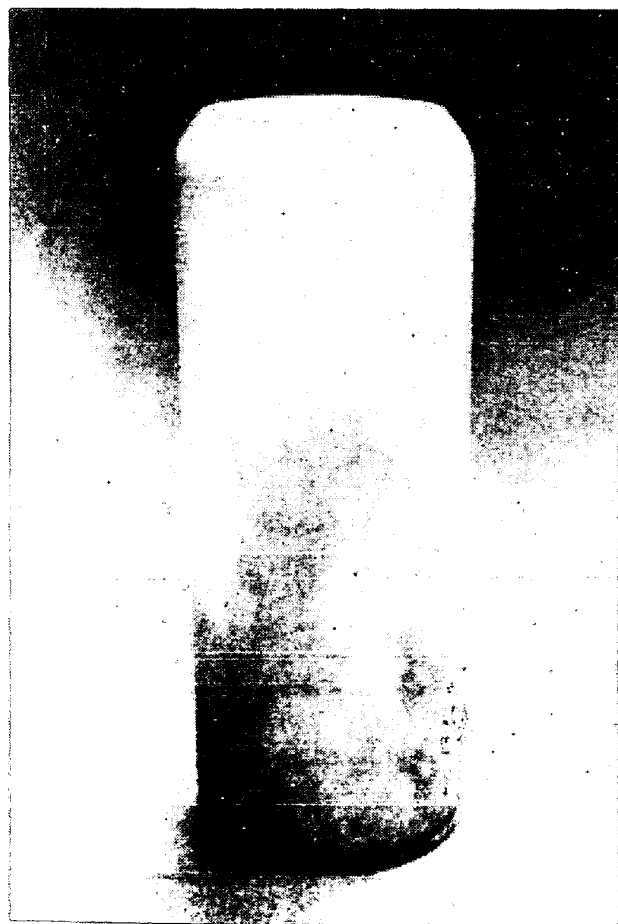
ドイツ鉄鋼協会（VDEh）
Klöckner-Werke 社副社長

Prof. L. von Bogdandy（ドイツ）

会長殿、ご参会の皆様。

ドイツにおける一万人の冶金技術者、VDEh 会員、ドイツ鉄鋼協会並びに関連する組織を代表してご挨拶並びに心よりのお喜びを申し上げますことは、私の非常な喜びでありまた名誉なことに存じます。

振り返って見ますと、貴協会はその輝かしい歴史にお



CRN より寄贈の花びん

機微に富み、勤勉で、礼儀正しければ成長する。力は、この基本的現象の結果である」と言っております。

この言葉は、貴国に当てはまり、鉄鋼業を強力なものとしたのです。



フランス鉄鋼協会より贈られたメダルの両面

いて貴国の鉄鋼技術のみならず、全世界の鉄鋼業にりつばな貢献をしてきたことは名誉なことです。本日の式典に当り、私は、貴協会と私達の協会とのすばらしいコミュニケーション及び友好協力の精神に感謝いたします。これは特に過去 25 年から 30 年における私達の会員との数多くの個人的な結びつきによつて非常に強固なものとなつています。貴協会と私達の協会は、極めて同様の、また同一の問題に直面してきました。

貴協会の一層のご発展ご活躍をお祈り申し上げます。
「おめでとうございます。」

ESTEL 社取締役

Mr. G. W. van Stein Callenfels
(オランダ)

会長殿、ご参会の皆様。

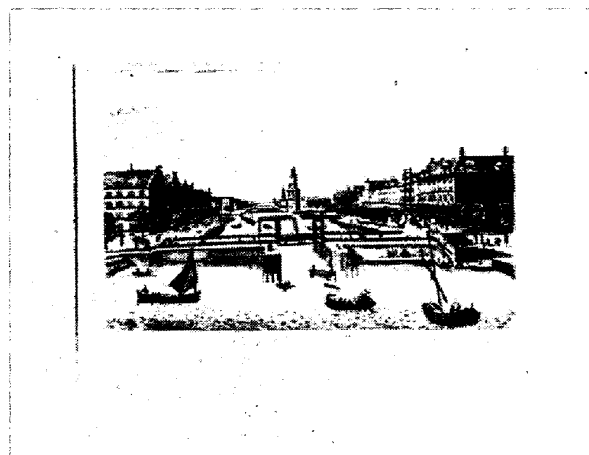
本日の式典に当り、オランダ鉄鋼業界を代表してご挨拶申し上げますことは、非常に名誉なことに存じます。

60 年前の 1915 年、オランダには鉄鋼業はありませんでした。オランダでは、バター、チーズ、草花等を生産していたに過ぎません。しかし私達は 1924 年に鉄の製造法、1938 年に鋼の製造法を学んだわけですが、従いまして、60 年間にわたり鉄鋼の製造に専門的ご活動をされてきた貴協会と比べますと、私達オランダはまだ若いといえるでしょう。

私達が鉄鋼の製造を始めて以来、貴協会とも協力を維持し、1961 年にオランダの冶金技術者が初めて日本を訪問しました。そして貴協会は、私達に貴業界の微細な技術分野までご教示ご支援下さいました。

また貴協会が、日本の鉄鋼業界間の技術ノウハウの交換を促進し、また貴協会発刊の著名な機関誌「鉄と鋼」を通じてノウハウを世界に普及させる上で果してきた数々の業績に対しては深い感謝と賞讃を禁じえません。

会長殿、本日はご招待に与り有難うございました。私達をいつもご親切におもてなしを載き、オランダを代表して、深く感謝いたしますと同時に、今後ますますのご発展をお祈り申し上げます。貴協会の鉄鋼業における一



カレンフェルス氏より贈られた風景画

層のご繁栄をお祈りしております。

JERNKONTORET 専務理事

Mr. L. Nabseth (スウェーデン)

会長殿、ご来賓の方々、ご参会の皆様。

スウェーデン鉄鋼界及びスウェーデン製鉄業協会を代表してご挨拶申し上げます、日本鉄鋼協会60周年に当り、ご祝辞をお送りしますことは、私の喜びであり、名誉に存じます。

私達は日本の鉄鋼業に対し、大いに尊敬、評価、賞讃いたしております。スウェーデン鉄鋼業界が感銘を受けたのは、日本の鉄鋼業界が成し遂げた範囲や幅の広さだけではありません。私達は、日本鉄鋼業界が技術的に指導的な地位を、少なくとも同程度、同時に維持してきたという驚くべき能力に感銘を受けています。

日本鉄鋼業界は、生産技術上の諸問題の解決策を探り、新製品を開発し、また鉄の新しい応用を発見するなどのイニシアチブを取り、多くの分野でパイオニアの役割を果たしてきました。従つて、スウェーデンの技術者が日本の鉄鋼業の研究を常に行っているのは当然の事です。

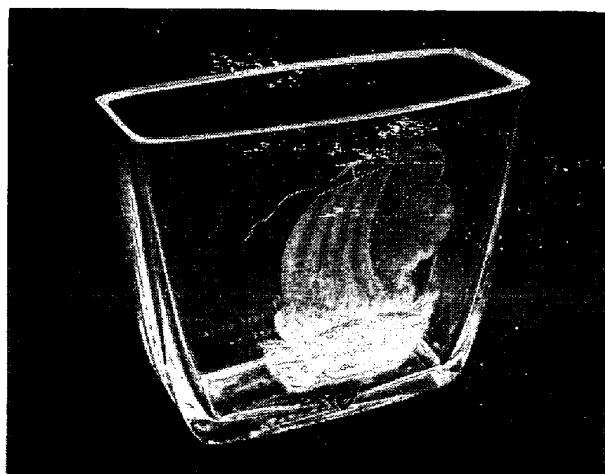
ここで、1966 年秋、スウェーデンの代表団が数々の鉄

鋼会社を訪問した視察旅行について触れてみたいと思います。この旅行は、田畑専務理事をリーダーとする貴協会のご努力のお陰で非常に実り多いものとなりました。又スウェーデン鉄鋼業界も、個人及びグループの日本からの多くの訪問者を喜んでお迎えしてきましたが、特に、1971 年秋の場教授を団長としてスウェーデンを幅広く視察された代表団の訪問を私達は嬉しく思っております。

日本及び他の国々における鉄鋼業界は、度々性質の似かよった多くの困難に直面しており、今後も直面することでしょう。私達は、多くの場合、こうした問題の解決は国際的レベルでの協力を通して追求しなければならないと確信しております。日本のように重要な鉄鋼生産国が鉄鋼分野で国際的協力を一層推進していることを嬉しく思います。鉄鋼生産国間の協力に関しては、国際鉄鋼協会内の協力が着実に進展しつつあるという重要性を強調しておきたいと思えます。

異なったレベルでの、又異なった形での国際協力が進展し、私達が鉄鋼生産者に要求される将来の需要を満たすことが成功するよう祈っています。

スウェーデン鉄鋼業界を代表して、貴協会及び日本の鉄鋼関係者が今後一層発展し、貴国及び世界中の経済、技術の発展に貢献なさるようお祈り申し上げます。



スウェーデン鉄鋼連盟より贈られた花びん

又貴協会に対し、スウェーデン鉄鋼業界からの祝辞と贈物をお送りしたいと思います。

日本鉄鋼協会に対しまして、60 周年記念式典を祝し、心よりご挨拶、お祝いを申し上げますと同時に、今後の一層のご発展をお祈りいたします。

英国金属学会会長
英国鉄鋼公社総裁

Sir Montague Finniston (イギリス)

会長殿、ご来賓並びに参会の皆様。

今朝、本式典に参列できましたことは、非常な喜びであり名誉と存じますが、私にはある予感がしています。と申しますのは、前回、貴協会の 50 周年式典の際、Sir Andrew-McCance が貴協会の 50 周年をお祝い申し上げましたが、話の途中で小さな地震が起こったのです。そこで私は、日本では当時以来地震がおさまつて、

私の話の間にはこうした事が起こらないようにと祈っています。

ロンドンにおきましては、4 週間後に私は金属学会の会長を辞任するつもりであり、これで当学会が正式に 1 年間を終了したことになります。この 1 年を経たばかりの学会を代表して日本鉄鋼協会の 60 周年に当りご挨拶申し上げるのは、むしろ、子供がおじいちゃんに誕生祝いを差し上げに行くようなものかも知れません。しかしながら私は、このようには考えておりません。何故なら、金属学会は 2 つの協会——106 年による鉄鋼協会と、それより少し若く、67 年になる金属協会の生きた伝統を受け継いできたからです。私が本日ここにご挨拶いたしますのは、このような長期にわたる今や新しい人間協力の 2 つの流れの使節としてであります。英国鉄鋼業界全体の使者として、日本鉄鋼協会の 60 周年を心よりお祝い申し上げると共に、貴協会の一層のご発展、ご繁栄を心よりお祈り申し上げます。

金属学会の同僚と、この特別な機会を非常に特別な方法で記念したいと考えました。つまり、活動の普及を象徴し、金属学会の情報及び本日の式典に関する冶金学上の関心を伝えるような方法ということです。

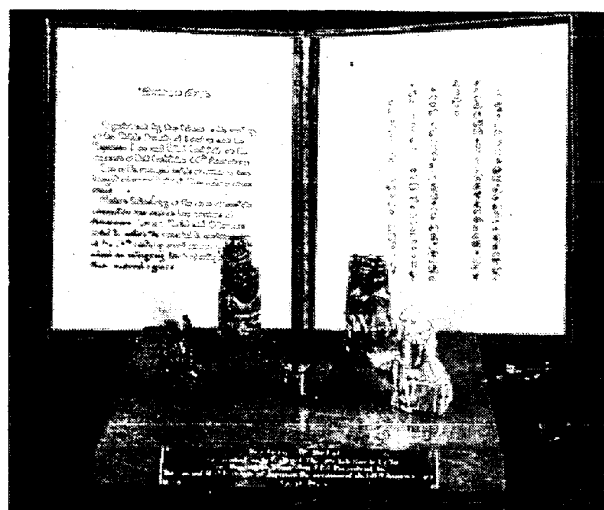
そこで私達は、14 世紀のチェスの駒を 4 個——キング、クイーン、ビショップ、ナイトを持ってきました。それを金属の複製にし、会議で見られるように、テーブルの回りで厳粛に会談しているように作り上げました。そしてこの銘板と併せ、日英両方で次のように記された小冊子を準備しました。

「この銘板はロンドン金属学会と、60 周年を迎える日本鉄鋼協会の会議を象徴する。4 つの主要な通商方法がこの歴史的なチェスの駒に生彩と内容をもたらした。

14 世紀の木彫工の優れた技量は、そのまま粉末冶金の進んだ技術に生かされ、アルミニウム、銅、ニッケルおよびステンレス製のこの駒は過去と現在の調和を如実に物語っています」

従つて、この小さな金属の像が、貴協会及び貴業界における私達の数多くの友人にとって美的にも冶金学的にも興味あるものになれば幸いです。

11 年前英国鉄鋼協会は、貴協会の前会長の三島徳七会長及び湯川正夫氏の御二人を名誉会員に選びました。



金属学会理事会は、この記念式典の意義を十分に意識し、この伝統を維持して行こうと決定しました。そこで貴協会の作井会長に金属学会の名誉会員をお受け頂きたいと思います。私達は我が鉄鋼協会の継承を通して作井教授が長期にわたり活動的で貴重な支援者であり、古き忠実な友人であると考えております。

氏が本当に古き良き友人であることを確認してみたいと思います。昨夜、氏は私に「古き友の前では、スカーレット・タイを着けなさい。」と言われました。そこで私達は喜んで氏を当名誉会員の仲間に迎えたいと思います。

会長殿、私達にとって、理事会及び金属学会の名の下に、この鉄鋼会議の銘板と学会の名誉会員証をあなたにお送りできることは、大いなる喜びであります。

「つまらないものと存じますが、心をこめてお贈りします。」

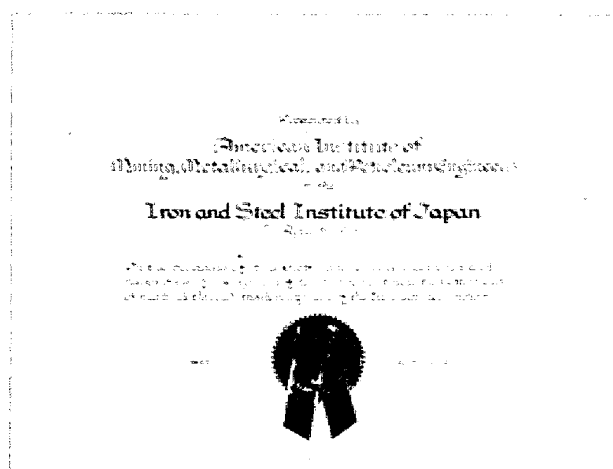
アメリカ鉱業、冶金、石油技術者協会
鉄鋼学会会長

Mr. W. H. Wise (アメリカ)

会長殿、ご来賓並びにご参会の皆様。

日本鉄鋼協会に対して、一言ご挨拶を申し上げます。アメリカ鉱業、冶金、石油技術者協会会長 James D. Reilly, 同専務理事 Joseph B. Alford 氏及び5万人余の技術者の会員を代表して、本日の記念すべき式典にご招待いただきまして有難うございます。過去及び現在の貴協会役員並びに会員の皆様が日本の鉄鋼業において数多くの目覚ましい業績を成し遂げ、これが貴国において素晴らしい貢献を成したことに喜び申し上げます。

今年 60 周年を迎える日本鉄鋼協会に対し、「アメリカ鉱業、冶金、石油技術者協会より、1975 年 4 月 3 日、60 周年を迎える日本鉄鋼協会に対し、貴協会の鉄鋼業を通じての人類の発展に対する功績を讃え表彰する」と記された証書をお送りすることを名誉に存じます。



米国協会を代表して、皆様方にお喜びを申し上げますと同時に、今後一層のご発展をお祈り致します。有難うございました。

アメリカ金属学会

Mr. B. W. Mardsden (アメリカ)

作井会長殿、田畑専務理事殿、ご来賓の方々、ご参会の皆様。

日本鉄鋼協会のこの歴史的な 60 周年記念式典に当り米国金属学会よりご挨拶を申し上げることは私の名誉であり喜びに存じます。

皆様ご存じのように、米国金属学会は2年前 60 周年創立記念を祝いました。従いまして、私達は日本鉄鋼協会に対して年齢的な緊密感を抱いています。

そしてまた私達は、金属産業の科学技術を促進し、世界中の鉄鋼業者間の連帯を一層強化するという私達共通の目標において、日本鉄鋼協会と一層親密な関係を保っています。日本鉄鋼協会が、日本における鉄鋼産業の発展に対して果たした役割は、実に名誉となるべきものです。この日本の鉄鋼産業は、本日ご出席の多数の外国来賓の羨望の的であることは今さら述べる必要はないでしょう。米国金属協会理事会会長 DEAN K. HANINK 氏、同専務理事 ALLAN R. PUTNAM 氏並びに米国、カナダ、南米に及ぶ 38,000 人の会員を代表して貴協会の本日の非常に歴史的な式典に当りご挨拶を申し上げます。私、彼等から日本の鉄鋼産業を訪問するには今回が最もふさわしいと言われました。

本日、東京においてアメリカ金属学会を代表してお喜び申し上げますと共に、ご出席の皆様をご招待いたしたく、アメリカで 1978 年に ASM, AIME, AISE の共催による国際鉄鋼会議にご出席戴くよう計画を練り始めて載きたいのです。その時には、皆様方には、私達と共に 65 周年式典に参加して載きたいと存じます。今回の皆様方の暖いお持てなしに感謝いたしますと共に、皆様がその会議にご出席の際には心より歓迎いたします。

会長殿、日本鉄鋼協会の必要性は 60 年前同様、今日も大なるものです。

本日、協会が 60 才若くなつた誕生日と考えようではありませんか。協会のご発展をお祈り申し上げます。有難うございました。

国際鉄鋼協会事務局長

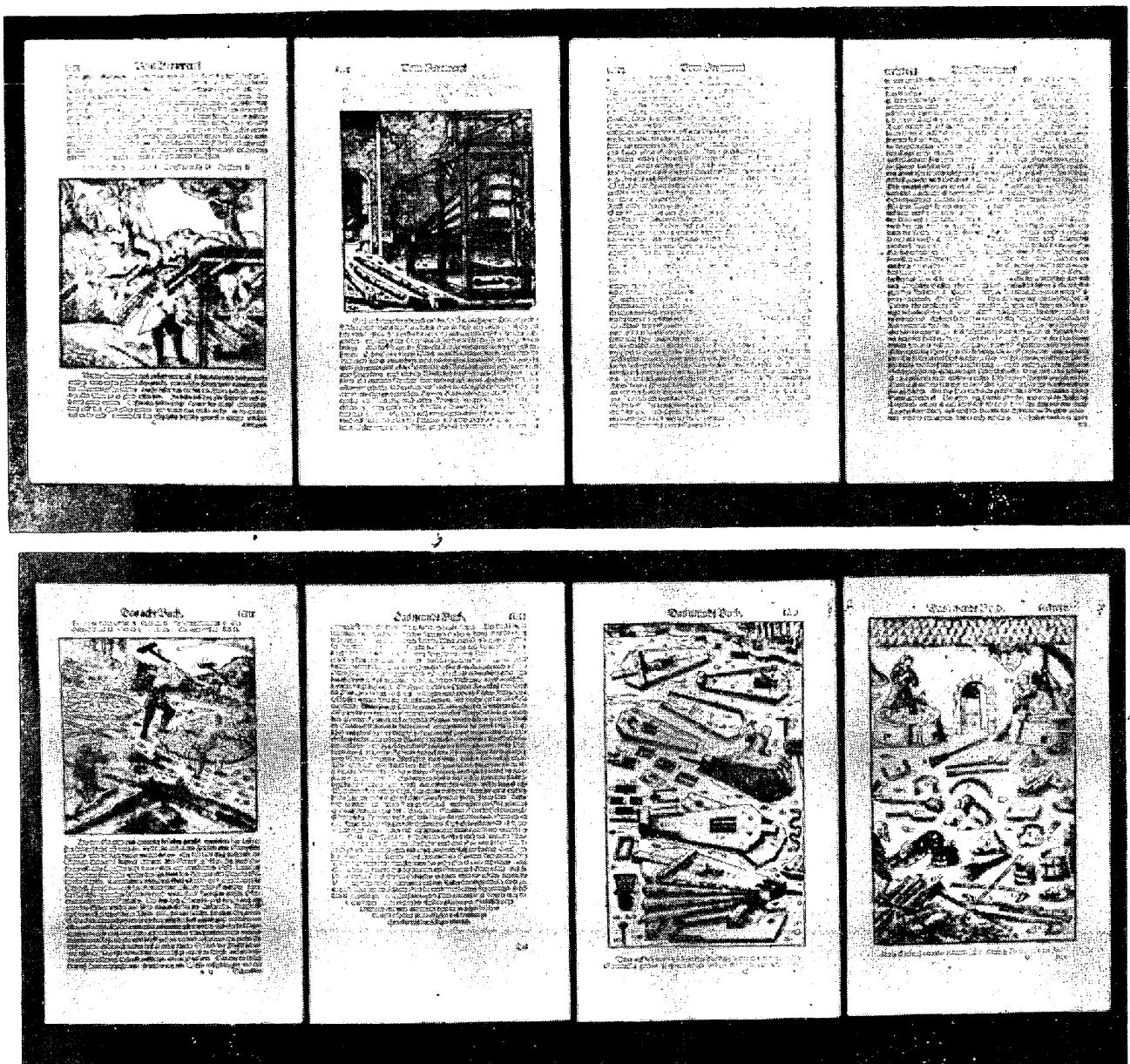
Mr. C. B. Baker

会長殿、ご来賓の方々、ご参会の皆様。

国際鉄鋼協会を代表して、日本鉄鋼協会の 60 周年記念式典に当り、ご挨拶ご祝辞を申し上げます。

貴協会が日本の鉄鋼業の発展及び近代化に過去長年にわたり重要な貢献をしてきたことは大いなる名誉とすべきです。日本鉄鋼協会は、何世代にもわたり鉄鋼技術者の知識向上のみならず、私達の産業にとって最重要課題である新しい鉄鋼技術の発展に、これらの人々が積極的役割を果たすような指導するなど長期にわたる輝かしい記録を持っています。IISI はまだ 8 年にしかありませんが、貴協会のように著名かつ有名な協会を当会員に数えることができて名誉に存じます。

私達は、こうした協会を最も高く評価しています。私達の敬意のしるしとして、欧米 38 カ国の IISI 鉄鋼会社 150 の会員から、この贈物をお送りしたいと思いま



IISI より贈られた「デ・レ・メタリカ」木版

す。

貴協会のたゆまぬ発展を祝して、私達の贈物は初期の 16 世紀ヨーロッパの記念品です。これは 1580 年頃に発刊されたアグリコラ著「デ・レ・メタリカ」の一部からの製練所の木版画です。

ラテンアメリカ鉄鋼協会 (ILFA) 会長 Mr. M. L. Feão

60 周年記念式典に出席できまして非常に光栄に存じますと共に、本日の式典が古き良き友のものでありますので、一層記念すべき感じがいたします。日本鉄鋼協会の中南米の ILFA との友好関係は、1960 年代の初めに当協会が設立された時、開始されました。

多くの場合、貴協会は高度の技術水準を確保べく書類資料を寄贈してきましたが、この期間を通じて私達は貴協会の経験、助言から多くのことを学んできました。

中南米では、鉄鋼業はまだ新しい業種です。しかし、私は、私達の過去 15 年間の業績を誉りと考えています。1959 年には、当地域での鉄鋼生産は大体 400 万メトリックトンでした。今日では、約 1750 万トンです。1980 年の予測は 54 万トンです。中南米の主要鉄鋼会社 40 社によって設立された当協会は現在世界をくまなく網羅する 193 社の全員を有しています。この発展は、ひとえに、快く経験や情報を提供して下さいました日本鉄鋼協会をはじめ多くの方々のご好意の贈物です。中南米の全鉄鋼業界を代表して、私達の協会が 60 周年を迎える時には、日本鉄鋼協会の今日の姿になるよう希望しております。さらにより重要なことは、私達が、貴協会記念式典におけるようなかくも素晴らしい功績、尊敬、愛情を得られるよう希望しています。おめでとうございます。

ソ連学士院会員
ソ連学士院 無機材料物理化学および
技術部門総括者

N. M. Zjavoronkov (U.S.S.R.)

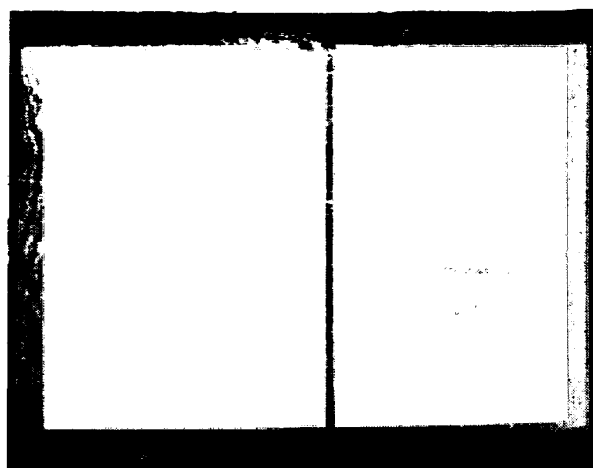
ソ連学士院会員
ソ連学士院 バイコフ記念国立冶金研究所長
同 金属製錬基礎 (物理化学) 研究会議長
N. V. Ageev (U.S.S.R.)

親愛なる皆様.

ソ連邦科学アカデミー無機材料物理化学および技術部門, ソ連邦科学アカデミー金属製錬基礎 (物理化学) 研究会談およびバイコフ記念国立冶金研究所は日本鉄鋼協会創立 60 周年にお祝いを申し上げます.

科学においては, 見解とか経験また発見した結果の交換が最も確かな発展をなすものです. これが, 様々な国で行われている最も重要な科学及び技術事業に関するすすんだ情報を持つ組織である日本鉄鋼協会の任務が非常に高く評価されるところであります.

日本鉄鋼協会は世界中の冶金学者や物理化学者たちの間に広く知られるようになってまいりました. 貴協会が発行されている雑誌やそれ以外の刊行物は非常に興味をもつて読まれており, それらは冶金学の理論的及び技術的諸問題について価値のある情報を提供するものです. 貴協会はまた多くの国々の優れた代表者である出席者が冶金学の実践的な科学技術の諸問題やより基本的研究の最も重要な諸方向について, 討論する場である国際会議や国際シンポジウムの開催に大変関心を払われておられ



ます.

日本とソ連との冶金学者たちの科学研究上のつながりを強めている貴協会の努力に私どもは, 大変感謝すると共にその努力を支持致します. そして, 冶金学的プロセス物理化学基礎の共同シンポジウムをもつことにより, 私たちの現在の協力の姿勢が更に発展し強まることを期待致します.

日本鉄鋼協会の一層の御成功と御発展を心からお祈り申し上げますと共に, 我が国の科学者との科学研究上の交友的なつながりが強まり続けることを真に望みます.

日本鉄鋼協会の会員のかたがたの御成功と御繁栄と御幸福とをお祈り申し上げます.